

教育研究所だより



宮古島市立教育研究所
指導主事 砂川 睦紀
宮古島市平良字西里1140
TEL 73-1104

連携大学を活用した校内研の推進 平良第一小学校の紹介 パート2



研究主任へのインタビュー つづき…



Q 2：先生方の様子、変容、研究成果等を教えてください。

A 2：昨年度までも、多くのことを学ばせて頂いていますが、今年度のオンライン研修会のまとめを中心に書かせて頂きます。

【教師1】

学級経営について、これまで自分自身の取り組みを十分に評価してこなかったこと、漠然としてクラスのゴールイメージを持ち取り組んでいなかったことに気づかされた。来月3月学級の目的地到着を目指して、学級経営戦略シートを作成し、取り組んでいる。

【教師2】

これまで学級経営は、担任が全責任を負うというイメージであったが、チームで取り組むという言葉が印象的だった。チームでより良い解決に向け、協働して進めることの重要性を改めて知った。

【本校は、3年前から学年会、部会の話し合いを充実させ、学年・学校がチームとして動くことに意識して取り組んでいる。】

【教師3】

クラス会議を行うことで、そこでの子どもたちの対等性が教科でも生かされ、誰もが気兼ねなく意見が言える学級にする。褒める：しかるの4：1も意識していこうと思う。



【全学級でクラス会議を実施】



【職員も4月と8月に愉快的な仲間会議を実施】
(3年前から)

【教師4】

・発言量が、対等性を生むのだと初めて知りました。ペア学習やグループ学習の際には、意図的に「同じくらい話してください」というような言葉かけをしようかなと思います。

・「観察+分析」が重要だと学びました。クラスで起こっている現象をしっかりと観察し、その背景を考えたり様々な要因を考えたりすることで「許せる」ようになるかもしれないなあと感じました。

【質疑応答でエピソードを話すと対応を丁寧に応えて頂き、学級経営に役立っています。】



【教師5】

今回の研修でも、赤坂先生から勇気を頂きました。

自治的能力を育むために、教師は様々な手順・手段を考慮しながら子ども達と関わりを持っていくことを改めて考えさせられました。

学校や教室には、いろいろなルールがあると思います。そのルールの中で子ども達がよりよい関係づくりを行っていくためには、教師自身がモデルになり、つながる言葉やつながる態度をみせていけば良いと感じました。また、子ども達と向き合う場面で「これは本当に譲れないことか」と自分に問いかけることも大切かと思いました。



【毎回、毎回赤坂先生から勇気づけを頂き、「集団づくり」に取り組むことができています。全職員、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、みんな赤坂先生が大好きです!!!】

宮古島市教育委員会は3つの大学と連携協定を結んでいます。今回紹介した平一小学校は、は上越教育大学赤坂教授を招聘し、研究指定校における研究の推進に取り組んでいます。

このように、各学校の研究テーマや学校課題の解決に向けて専門家（大学教授等）を活用することはとても効果的な取り組みだと考えます。教育研究所では、各学校の依頼を受けて、テーマや課題に沿った教授の選定やその接続業務を行っています。お気軽にご連絡下さい。